

令和3年産大崎地域の 大豆作技術情報（第4号）

令和3年8月16日発行
宮城県大崎農業改良普及センター
TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910
<https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～栽培のポイント～

- 天候に留意し、干害・湿害対策を行いましょ。
- 病害虫防除を適期に行いましょ。

1 気象経過

- 最高気温は6月第5半旬、7月第1半旬、第2半旬を除いて平年より高くなりました。最低気温は全ての半旬において平年より高くなり、気温の高い日が続きました。
- 日照時間は7月第1半旬から第3半旬にかけて少照となりましたが、その後概ね回復しています。
- 降水量は6月は平年を大きく下回りましたが、7月は第2半旬、第6半旬にまとまった降雨があり、平年を上回りました。

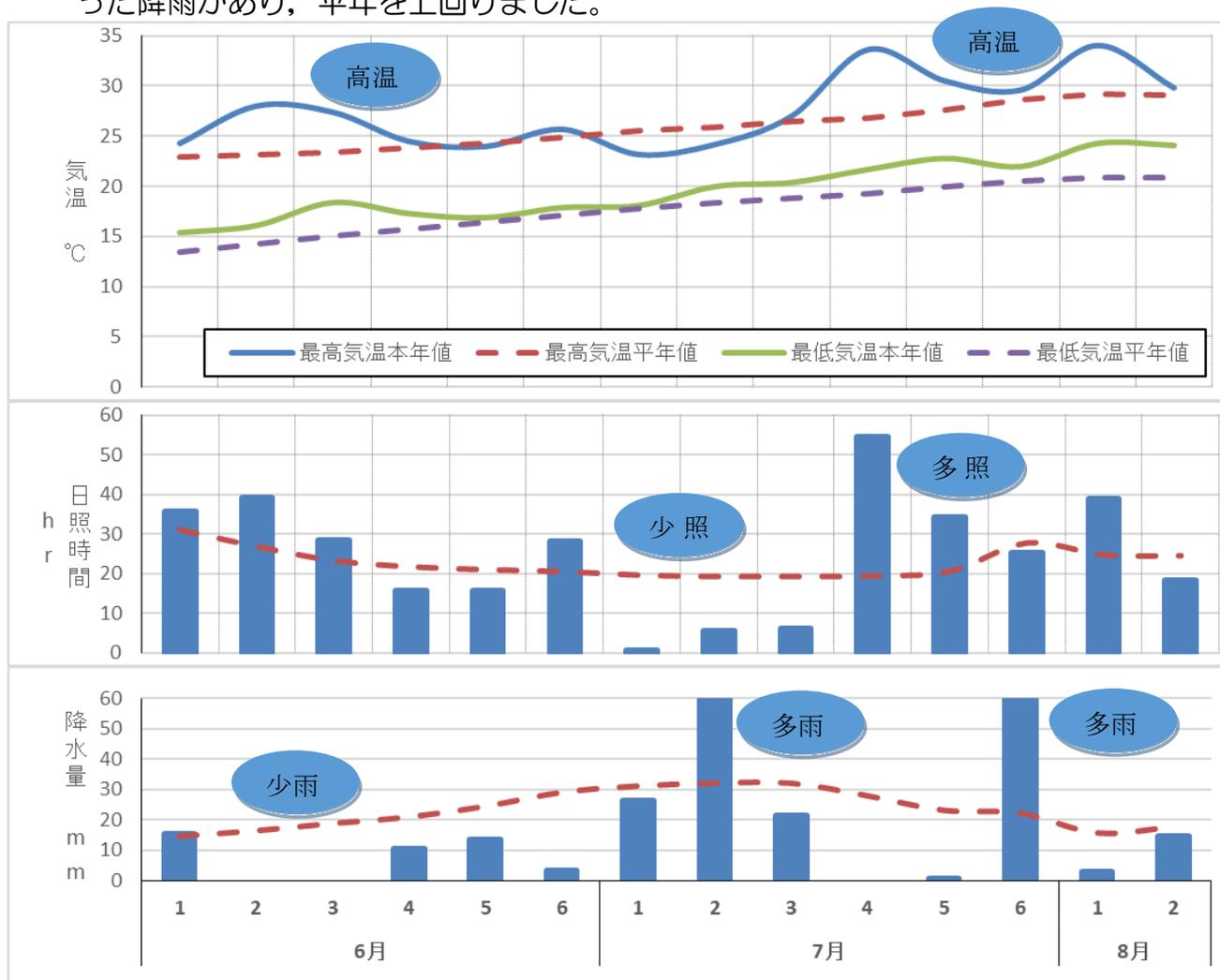


図1 6月～8月第2半旬の気象（点線は平年値）

2 生育概況

8月10日の調査では、莖長はほ場による差が大きく、ミヤギシロメ、きぬさやかでは平年より長く、一方タンレイ、タチナガハでは平年より短くなっています。主莖節数は全てのほ場で平年並となっています。一方で分枝数は8月10日の調査ではいずれのほ場でも平年を下回る結果となりました。

開花期は、全てのほ場で平年並から平年より早くなっています。

表1 生育調査ほの生育調査結果及び開花期

地区名 品種名	区分	開花期	8月10日		
			莖長 (cm)	主莖節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
古川 タンレイ	本年 平年差・比	7月26日 (2日早い)	47.3 72%	13.5 92%	2.7 75%
古川 ミヤギシロメ	本年 平年差・比	8月4日 (1日早い)	89.6 119%	15.8 104%	3.5 92%
三本木 きぬさやか	本年 平年差・比	8月2日 (平年並)	64.2 115%	12.9 105%	2.7 90%
小野田 タチナガハ	本年 平年差・比	8月2日 (平年並)	53.3 86%	13.7 102%	2.4 91%

※ 平年差・比は、過去5か年（平成28年～令和2年）の平均値との比較。



写真1 古川ミヤギシロメ



写真2 三本木きぬさやか

3 今後の栽培管理のポイント

(1) 干害・湿害対策の実施

開花期以降（7月下旬～9月上旬）は、大豆の養水分吸収が多くなる時期であり、土壌水分が不足すると落花・落莢が多くなります。

降雨が続く場合は、降雨の前後に排水溝や明きょを点検し、排水が滞らないようにしましょう。また、水が溜まった所は溝を切り、明きょにつなげ、排水を促進しましょう。降雨がない日が続く場合は、土壌表面にしみ出す程度まで、排水溝や畦間内に通水を行いましょう。

(2) 病虫害防除

1) 紫斑病 開花期後 20~40 日に防除

- 「タンレイ」は紫斑病抵抗性が“中”であり、連作ほ場や成熟期に降雨が多い場合は多発しますので、2回防除を徹底しましょう。
- 同一系統の薬剤を多数回散布すると耐性菌が発生する恐れがありますので、2回防除の場合は異なる系統の薬剤を使用しましょう。
- 収穫が遅くなると紫斑粒の割合が高まりますので、適期収穫に努めましょう。



写真3 紫斑病

2) マメシクイガ 8月下旬に1回目, その7~10日後に2回目の防除

- 羽化した成虫やふ化直後の幼虫に対する防除が効果的です。
- 大豆を連作すると、越冬幼虫が増加し、食害の発生が多くなりますので、連作ほ場の発生状況に注意しましょう。



写真4 マメシクイガ幼虫

3) フタスジヒメハムシ 8月下旬~9月上旬に防除

- 8月下旬頃までの若莢を食害することで、そこからカビが入り込み、汚粒（黒斑粒）や腐敗粒となります。作付け初年目から被害が出やすい傾向があります。



写真5 フタスジヒメハムシ成虫

4) ジャガイモヒゲナガアブラムシ 8月~9月に防除

- 8月下旬~9月上旬に急激に発生すると吸汁害に伴う早期落葉により、収量・品質に大きな被害が出ます。



写真6 ジャガイモヒゲナガアブラムシ成虫

5) カメムシ類 他の主要害虫との同時防除

- 子実を吸汁加害し、夏季の高温で発生が多くなる傾向があります。



写真7 ホソハリカメムシ成虫

